

1 題材 「はあ?はあ…はあ!」の「はあ」をさぐろう!

2 本題材の目標

- (1) 安定した気持ちで活動することができる。 【2-(1)】
- (2) 言葉とそのときの表情が相手にどのように思われるのかを知る。 【3-(1)】
- (3) 「お題」の示す意味を声と表情で相手に伝えることができる。 【4-(4)】

3 題材について

本学級は7名の児童が在籍しているが、本時は、A児、B児2人による活動である。

本題材は、相手のちょっとした表情や言葉の微妙な変化に気付き、それを手がかりに相手の気持ちを推測できるようにすることをねらいとし、自立活動の内容「2心理的な安定」の「(2)状況の理解と変化への対応に関すること。」「3人間関係の形成」の「(3)自己の理解と行動の調整に関すること。」の項目を関連づけて設定した。表情と気持ち、気持ちと行動の結び付きについて考える学習を積み重ね、日常生活でも自分の行動や発言を相手がどう思うかを考えながら友達と関わることができるように促し、友達との適切な関わり方を身に付けさせたい。

指導にあたっては、様々な「はあ」という言葉を身振り手振りを使わずに声と顔の表情だけで行う。活動を通して、様々な言葉のイメージを広げ、他者の意図や感情を理解し、コミュニケーションの力が高められるように支援を工夫したい。また、安心して素直な気持ちを表現できるような問いや言葉掛けを行うことで、順番や勝敗を受け入れ、行動や感情をコントロールして穏やかに過ごせるようにしたい。さらに相手を意識して活動できるようにお互いに表情を確認したり、鏡を使って自分の表情を工夫したりすることで、楽しみながらルールを守り、準備や後片付けを協力して行うことができるようにしたい。

4 児童の実態と個別目標

	児童の実態	短期個別指導目標	題材における個別の指導目標
A児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で学習する範囲を決め集中して学習に取り組むことができる。 ・あおり言葉にものすごく敏感で、すぐにイライラしてしまう。 ・感情が高ぶった時に自分の気持ちを相手に伝えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イライラしたときにどうすれば、気持ちを切り替えることができるのかを教師と一緒に考えることができる。また、物に当たったり、友達を追いかけたりするのではなく、「何が嫌か」、「何をやめてほしいのか」を言葉で伝えることができる。 【3-(1) 2-(1)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情が高ぶった時に、自分に合った対処法を考えることができる。 【2-(1)】 ・同じ言葉でも顔の表情や言い方によって相手への伝わり方に違いがあることを知る。 【3-(1)】
B児	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を始める前にゴールが分かるとスムーズに取り組むことができる。 ・遊びが楽しくなってくると、会話の中で暴言やあおり言葉が目立ち、友達とトラブルになることがある。 ・人前での活動や発表をすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イライラしたときにどうすれば、気持ちを切り替えることができるのかを教師と一緒に考えることができる。また、イライラした時や発表の時に紙に自分の気持ちを書いて伝えることができる。黙るのではなく、何かしらの意思疎通をすることができる。 【3-(1) 4-(4)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードなどを本人と一緒に作り提示したり、「こんな時どうするのか」を話し合ったりし意思疎通ができるようにする。 【3-(1)】 ・お題の一言の言葉を相手に伝えることができる。 【4-(4)】

5 指導計画と評価 (3時間扱い)

次	時	主な学習活動	主な評価
1	1・2 (本時2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの確認。 ・「はあって言うゲーム」を行い、感情表現活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて状況を判断し、あらかじめ決めたルールを守ろうとすることができる。 【2-(1)】 ・状況に応じた言葉やカードを使い、感情を表現することができる。 【3-(1)】
2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「はあって言うゲーム」を使い、声や表情で気持ちを読み取り、相手に進んで伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守って、集中して活動しようとする。 【4-(1)】

6 本時の指導

(1) 個別目標

・A児：「顔の表情や言い方によって」同じ言葉でも伝わり方に違いがあることを知る。

【3-(1)】

・B児：「お題の一言」の言葉を相手に伝えることができる。

【4-(4)】

(2) 準備・資料

何分カード、「はあって言うゲーム」、ルール表

(3) 展開

学習活動・内容	教師の支援と評価 (◎評価【評価方法】〈合理的配慮〉)	
	全体	個別
1 始めのあいさつ	・あいさつをして、学習の始まりが意識できるようにする。	
2 本時の活動を知る。 ㊦ 言葉や表情で気持ちを伝えよう。	・本時の内容を知り、気持ちを言葉や表情を使い、表現することを確認する。	・A児、B児共に、うれしい時、悲しい時などの顔の表情を実際に行い、自分の顔を鏡で見る。 ①-2-1)
3 ルールの確認 ①順番を決める ②何回戦するかを決める ③ポイントを決める ④お題を決める。	・本時の流れを掲示することで安心して学習に取り組めるように配慮する。	・A児には、うれしい時、悲しい時などの顔の表情を友達や教師に見てもらい相手への伝わり方に違いがあることを知る。 ①-2-1)
4 言う言葉を練習する。	・練習をすることで発表が苦手な児童の苦手意識を減らす。	・B児には、リラックスしてゲームができるような雰囲気作りをし、優しく言葉掛けをする。 ①-1-1)
5 「はあって言うゲーム」をする。 ・A児「なんで？」の「はあ」 B児「力をためる」「はあ」など	・声や表情が、その感情を的確に表現しているかを見守りながら、教師も一緒にゲームに参加する。 ・ルールを守らせたり、友達の表情の変化をしっかりとらえさせたりすることで、「はあって言うゲーム」を協力して楽しく取り組めるようにする。	◎A児：同じ言葉でも顔の表情や言い方で相手への伝わり方に違いがあることを知ることができたか。 (観察)【3-(1)】 ◎B児：お題の一言の言葉を相手に伝えることができたか。 (観察)【4-(4)】
6 振り返りをする。 ・本時の学習の感想や活動を振り返り発表する。	・めあてを確認しながら振り返りを行うように助言する。	・B児には、発表するときに見られるのが嫌な時には、聞き手は目を閉じて聞くことを提案する。 ①-1-1)
7 次時の学習の確認をする。 ・カードを増やすことや表情の練習することを伝える。	・次時の学習が期待できるようにどのようなことをするのかを伝える。	

自立活動の内容6区分27項目

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	(1) 情緒の安定に関する事。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。	(1) 保有する感覚の活用に関する事。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事。	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事。	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事。	(2) 言語の受容と表出に関する事。
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事。	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。	(3) 言語の形成と活用に関する事。
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。		(4) 集団への参加の基礎に関する事。	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	(4) 身体の移動能力に関する事。	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
(5) 健康状態の維持・改善に関する事。			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。